

## 4) ボランティアに対するアンケートから

### 今後のボランティア活動についての意見

1. ボランティア活動は自分の生活は出来ていて、あいてる時間でやらなければ疲れて長続きしなくなります。そこを良く考えて参加したいものです。
2. 3~4日程度では犬の散歩ぐらいしか仕事はなく他の時間はヒマになってしまう。いったい何をしにこんなとこまで来たのかと考えたくなるから、おとなしくコマになるがいい。  
ボランティア活動をするためではなく、友人と遊ぶためにくるボランティアもいて、犬、猫の世話が二の次になってしまっているのではないかと思わせるふしがたびたびあった。また長くいるボランティアで勢力図ができあがっていて、ポツとやって来たボランティアにとっては人間関係がすごく怖い。  
感謝状もうれしいが、このお金を他のことにまわした方が良かった。
3. ボランティアとはいえリーダーは必要だと思う。新しく来た人が仕事を指示して欲しいと訴えても自分で見つけて下さいといわれる。ある程度組織的に動いた方が無駄の労力を使わないですむと思う。
4. 最後の一頭まで幸福になれるよう続けてお手伝いしたいと思いますが、動物を飼う人たちへの教育を考えていきたいし、いただきたい。
5. たった一日お手伝いに行っただけで立派な感謝状をいただいて大変恐縮しています。今回のことで大きな組織を知りましたが、地域の小さな活動も大切に行きたいと思えます。一人でも多くの小さな生命をいつくしむ人が増えるようにこれからも頑張ります。
6. 先生方や三田の長期のボランティアは、休みを善意から断っても十分とらせるべきです。疲れから体が動かなくなったり、精神的にまいって来たりすると周りに影響を及ぼします。ネットワークを刺激すること、半年に一回ぐらいミニコミ紙が作れると良いと思えます。
7. 家から近いので申し込みに行きましたが、邪魔のような扮意気でした。電話を二度ほどしましたが、今は結構ですといわれました。足りなくなった時再募集ではなく、登録している人に電話などで連絡出来ないのでしょうか。
8. 救護センターの現況を、定期的に新聞の震災関連伝言ページの所で知らせてもらいたい。
9. テレビで紹介していたボランティア募集の所に電話をしたのですが、結局連絡がありませんでした。  
連絡を待っていた人は多いと思えました。そういう人材を生かして活動できれば、もっと何かが出来たのではないかと思います。対応の仕方考えれば、ボランティアが定着するのではないのでしょうか。連絡が無かったので私は知り合いを通して現地に入りました。
10. 救護センター所在地のボランティアを数多く募る事が長期戦には必要かと思えます。
11. 互いに自分達はボランティアを動物達に行っている同志であるという自覚を持ち、互いへの感謝の気持ち、共感を持つようさりげない教育を主催者はすべきだ。  
里親にもらわれていった動物の追跡調査を必ずやって欲しい。
12. 参加後矛盾を感じた事が一つあります。たしかに震災で被災した動物はすごくかわいそうですが、他にもかわいそうな動物はたくさんいると言うことです。保健所には死を待つみの犬、猫がたくさんいます。それを思うと被災動物の方がむしろ幸せではないかと考えてしまいます。
13. ボランティア、ボランティアと騒がない事。人が困っている時に助けるのは当たり前。人がやるからやるのではない。
14. いくら個人で手伝いたくても、具体的にすぐ動ける所が無いのが実情でした。各自治体がイニシャチブをとり、諸団体がすぐにそれに応えられる体制を作る事を今すぐやらなければならないと思えます。
15. 短期間のボランティアの人たちも含めて効率的に動かすことが必要です。そういう機能を持つ組織の下でならボランティア活動も、もっと有意義なものになるのではないのでしょうか。
16. もし良ければ、交通費を少しでも出してほしい。
17. 最初のころには皆んな必死でとりこんでいたと思いますが、2回目に行った時はサークルっぽい感じがして、ボランティアというのはこれでいいのかと考えてしまいました。  
里親希望の人の多さに驚きました。保健所で捕らわれて殺されていく動物たちがたくさんいることも、そういう人達に知らせて欲しいと思えます。
18. 今回の震災で動物救護のボランティアだけでたくさんの団体が活動しました。動物を助けたいと思う心は同じなのに、どうして人間の思惑がはいると一つになれないのでしょうか。皆で協力すれば、もっとたくさんの動物が救えたのにとすると残念です。
19. 皆同じ思いでボランティアに来ているのだから、くだらないことでイザコザを起こさないで欲しい。

周りまで不愉快になる。

来たくない人は来なくて良い、イザコザの原因になる。人手は欲しくてもイザコザがあるだけで能率が落ちる。無理な強制的な人手の派遣はしない方が良いのでは。

20. その日その日で今一番何を先にしなければならぬかが変わり、人によっても異なるので、マニュアルみたいなものを作ったら良い。ボランティアの質を良くするために研修があれば良い。
21. ボランティア保険に希望者だけでも格安で加入出来れば良い。夜の事務所でボランティア達が私用電話のかけ放題。ボランティアである以上、コレクトコールか公衆電話を使用すべき。  
感謝状とてもうれしかった。
22. 経費が少しかかりますが、殺菌力のある薬用石けんや犬の手入れ用品、犬の歯用のガム等を用意して、その表示と置き場所を決めてほしい。  
昼休みには、体力を消耗した人たちがくつろげる背もたれのあるイスは必需品だと思います。
23. 里親探しについては、TV等の放送回数を増やしてボランティアには参加できないが里親になってくれる気持ちのある人に知らせたい。
24. あずかりの犬、猫のオーナーが会いに来る事がほとんどない。せめて一月に一度は来るようにすべきだ。
25. 一般のボランティアと獣医学生との扱い、参加のさせ方に不満があります。一般は断って獣医学生に参加させるのはどうでしょうか。
26. もっともっと収容されている動物たちの精神面のケアに力を入れて欲しいと思う。精神的に不安なため里親が見つからなかったり、引き取られた後でうさ過ぎるなどといったトラブルが出てきたりしている。一頭でも多くの動物たちの心のケアをして、少しずつでも元気で明るくなってくれれば良い。
27. 各都道府県に数名は動物救護ボランティアを置いて、いっかまたどこかで災害がおき動物救護が必要になった時、素早く活動できる体制であったほうが良い。
28. 初めてボランティアに来た人に、まず一通りの説明をする必要があると思う。
29. 動物に対してのケアが優先なので仕方ありませんが、もう少し人に対して専門的に対応できる人がいた方がスムーズに行くのではないのでしょうか。でも全体としてはとても楽しかったし、現在も頑張っている方には頭が下がる思いです。

## 教護センターの組織・運営についてボランティアとして気づいたこと、提案したいこと

1. 使途金を明確にして欲しい。
2. 最初のころはリーダー的な人がいたが、帰った後は閉鎖的になった。リーダー的な人はいつも必要。  
活動に入るとき指示してくれる事がのぞましい。
3. 泊まりと通いのコミュニケーションをはかり、長期の活動に活かすべきだ。
4. 組織のしくみ、運営費について知る機会があっても良かったのではないかな。
5. リーダーに望むこと。マニュアル通りやればこなせる仕事ではないので、柔軟性があり、タフで持続力があること。
6. 長期化の中で、常駐の人がいかにリフレッシュするかがたいせつ。
7. 今すぐにも今後に備えて、全国規模の組織、マニュアル作りが必要。
8. 同じボランティアに変わりはないはずなのに、一般人（と獣医師？）、普通学生と獣医学生、泊まりと通い等の間に隔たりや対応に差があったようにおもう。みんなが同じボランティアという意識をもてるようにすべきではないかと思う。
9. やって欲しいこと、欲しいものなどの情報をもっと流して欲しい。
10. 救護センターの数が少ない為、保護する場所が片寄っていた。もっと小さくても良いから多く場所に設けた方が、いろいろな地域の人々が参加できる。
11. 里親募集をマスコミなどを利用して広く伝えて欲しい。里親に出す時の対応をもっとスムーズに積極的にやらないと、チャンスをのがしてしまう。
12. 急だったわりには運営などが確立していた。
13. ケガのないように動物の扱い方をボランティアに指導する必要がある。